

# 新病院建設地市民説明会（報告）

## 建設地（場所）について

新病院建設地市民説明会を、平成 29 年 10 月 10 日（火）から平成 29 年 10 月 19 日（木）にかけて、市内 10 ヶ所で開催しました。

- 「現地」に新病院を建設することについては、どこの市民説明会会場の質疑や意見においても、反対の声はまったくなかった。
- 新病院建設においては、利便性を求める要望や、メディカルスタッフの確保についての意見が比較的多かった。
- 新病院の早期開院を望む声が多く聞かれた。

## 説明会参加者：282名

## アンケート回収した枚数：242枚

説明会には 282 名の参加があり、会場で協力をお願いしたアンケートの記入についても、242 名よりアンケートを記入していただきました。

アンケートにご協力いただきました皆様の、会場別の総数と、地区別の参加者数につきましては下記表のとおりとなっております。

### ●会場別

会場	参加者	アンケート		
		総数	男	女
荒尾第一小学校	28	19	17	2
万田炭鉱館	40	36	20	16
エポック・荒尾	20	18	12	6
みどり蒼生館	26	21	16	5
メディア交流館	25	25	15	10
桜山小学校	13	12	7	5
府本小学校	13	10	8	2
小袋工芸館	27	25	8	17
清里小学校	21	20	15	5
文化センター	69	56	35	21
	282	242	153	89

### ●地区別

地区別回答数	
荒尾	35
万田	35
万田中央	10
井手川	16
平井	21
府本	8
八幡	31
有明	17
緑ヶ丘	9
中央	22
清里	15
桜山	12
市外	9
記載なし	2

### ●年代別

年代別回答数	
10歳	1
20歳	6
30歳	21
40歳	25
50歳	29
60歳	71
70歳以上	89

## アンケートに記入された主な意見

- 現地建替えの判断でよかった。今後は一日も早い開院を望む。  
(※ほか、早期開院を望む声が多数寄せられた。)
- 新病院建設地の説明が分かりやすく、理解できた。今後の目指す医療や、現在の市民病院の強みなど理解できてよかった。
- 新病院建設に当たって、医師確保が重要だ。また、看護師等についても、近隣看護学校等への働きかけも重要だ。
- 充実した医療環境の提供のため、診療科の開設や人材育成にも力を入れて頑張ってもらいたい。
- だれもが使いやすい病院を造ってほしい。特にバリアフリーや、病院内にコンビニを併設してほしいなど、これまでなかったアメニティの向上を期待する。
- 交通の便を良くして欲しい。バス路線等についても乗換えすることなく病院に行ける環境整備（乗合タクシー含む）を望む。
- 工事期間中は、工事用車両からの安全確保のため、ガードマン等の配置を効果的に行ってほしい。
- 設計を行う際には、地震に強い安心安全な建物となるようにしてほしい。
- 救急車の出入り口の安全性の確保と、一般車両との分離を行ってほしい。

## 説明会で発言された主な意見と回答

- Q 建設地の場所は高台になっているが、あのままの高い場所に建てるのか。
- A 現在の高さから切土（土を削る工事）を行うなど、できる限りフラットで利用しやすい造成設計を行っていく予定である。
- Q 現在はバス停から病院までは上り坂になっていて、さらに階段が約20段ある。建設される際は、段差の解消はできるのか。
- A バス停から坂道と階段があり、ご負担かけているとは認識している。新病院では、バス停から雨に濡れず、歩いても行きやすい、利用される方にやさしい病院としたい。
- Q 4～5年で110億円の経費が掛かるとなっているが、今後金額の変更はないのか。
- A 東日本大震災以降に着工した同規模・同機能病院の平均単価を参考に概算事業費を算出している。今後においても設計事業者等とコスト縮減の検討を行い、社会情勢を注視しながら、極力、概算事業費の範囲内で建設できるように努める。
- Q 新病院の必要性は十分理解しているが、医師・看護師・スタッフが救急病院としてその機能を果たすため、新病院の開院に向け、建物だけ新しくなるのではなく、スタッフもサービス向上に向けた意識改革を行ってほしい。
- A スタッフの研修等も含め、新病院建設に向け取り組んでいきたい。
- Q 府本地区・平井地区は、バス路線が廃止され、現在、乗合いタクシーが運行されているが、行先はシティモールまでで、市民病院までは路線バスに乗り換える必要があ

る。できれば市民病院まで乗合タクシーで直接行けるようにしてもらいたい。

A 乗合いタクシーの市民病院までの運行については、以前からご要望を受けているが、バス事業者やタクシー事業者との調整を行い、協議を重ね前向きに検討していきたい。

Q 現在の医師は総合病院としては少ないと思うが、医師の確保対策は可能なのか。

A 小児科、眼科、呼吸器科など、大学医局に常勤医師の派遣を依頼しているところであり、今後も、病院の事情を説明しながら、継続して依頼していきたい。また、熊本大学とは包括協定を結んだこともあり、一層連携を強化していきたいと考えている。